

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	037 -	事業名	消防団運営事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	-------	-----	---------	------	-------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	一般会計	
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 - 項 - 目)		
	第6次総合計画・基本目標	—	8-1-2 非常備消防費		
	法定受託事務の有無	—			
	その他(関係計画、要綱等)	✓	長久手市消防団条例、長久手市消防団規則		
	事業開始の背景、経緯等	昭和40年に消防団の組織が確立し、消防団運営事業を開始した。			

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 消防団の運営全般に係る事業			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 消防団員を中心に、全ての市民を含み、消防車両、消防装備等消防団行政に関わるすべて。			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民啓発により消防団への市民理解を深めるとともに、消防団による防火防災活動に備え消防団体制を整える。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 消防団事務事業	拡充	④ 消防団手当	拡充
	② 消防団活性化事業	拡充	⑤		
	③ 自動車管理事業	改善・見直し	⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算	2,345	37,450	35,636	35,748	35,080
			決算	1,747	31,910	29,602	27,071	
	人件費(B)	千円	決算	4,200	10,464	20,137	6,755	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	5,947	42,374	49,739	33,826		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 訓練・研修回数	回	目標	60	60	60	80	80
			実績	85	82	85	91	
	B 新規入団員数	人	目標	10	10	10	10	8
			実績	16	6	9	14	
	C 事故・故障回数	回	目標	0	0	0	0	0
			実績	0	0	0	1	
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 訓練・研修回数により、消防団員の知識・技術の向上に努めていることが判断できる。								
B 新規入団員数により、市民の消防団への理解の深まりや消防団活動の活性化進捗が判断できる。								
C 事故・故障回数により、消防団車両の管理状態が判断できる。								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 機能別消防団を設立したことにより、新入団員が目標を上回った。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 平成29年度にキッズ消防団を設立し、平成30年度に機能別消防団を設立した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 正規団員そのものの活性化につなげる事業を実施しないといけない。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 消防の広域化を受けて、従来の火災対応中心の活動から防災対応中心の活動へと変換していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 防災対応活動ができるように、資機材の整備と共に団員の技術の向上を図る。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	消防団運営事業			担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	①	消防団事務事業			予算区分	8-1-2 非常備消防費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和55年度			終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防団員を対象に、操法大会及び各種消防訓練を実施するほか出初式等の行事に参加する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 消防団員に訓練等を実施し、必要な知識・技術の習得向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	—	5,931	6,149	7,721	7,624
		決算	—	5,805	6,688	7,583	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)	消防団員等公務災害補償基金負担金				4,274 千円		
(2)	消耗品費				844 千円		
(3)	MCA無線使用料				596 千円		

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
訓練・研修回数	回	見込	60	60	60	80	80
		実績	85	82	85	91	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> ・操法訓練 ・定期訓練 ・競練会 ・署合同訓練 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

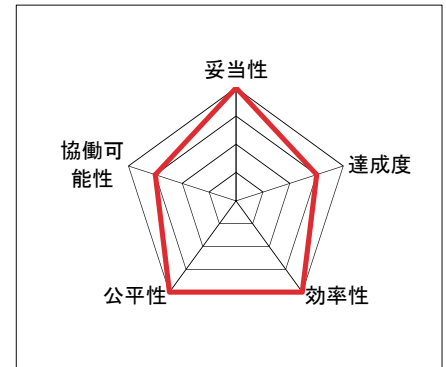
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 消防広域化により、火災対応中心の活動から、防災対応へと変更している。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
7,721 千円 7,624 千円 Δ 97 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
消防の広域化により、消防団に求められるものが変化してきているので、今後のあり方を検討する必要がある。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
訓練項目に防災対応活動を取り入れて実施した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	4
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	130	130	130	130
実績	128	122	125	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
団員の構成は、市民がほとんどである。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
愛知県消防操法大会ポンプ車の部で14位となりました。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
地域防災力の中核を担う消防団として、防災対応力の充実強化を図っていく。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	消防団運営事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	②	消防団活性化事業	予算区分	8-1-2 非常備消防費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和55年度	終了(予定)年度	-		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・市民等を対象に各種行事等で入団促進の事業を行っている。 ・消防団及び団員に災害時に必要な資機材や装備品を購入している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 入団を促進し、団員の増加を図るとともに、消防団装備資機材の充実強化を図り、災害対応力の向上につなげる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	626	7,063	4,421	2,724	2,913
		決算	522	5,912	3,762	2,440	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		消耗品費				1,836	千円
(2)		印刷製本費				148	千円
(3)		広告料				146	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
新入団員	人	見込	10	10	10	10	8
		実績	16	6	9	14	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 機能別消防団を設立した。 チェーンソーを配備した。 編上げ靴及び雨衣を順次配備した。 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

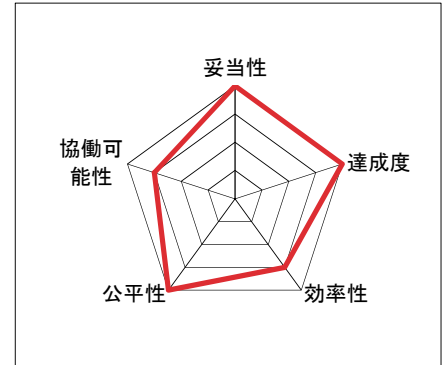
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
消防の広域化により、火災対応中心な活動から、防災対応へと変更している。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
2,724 千円 2,913 千円 189 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
消防団に新たな区分として、機能別消防団員を設立し、大規模災害時に不足する消防力を補完できるよう検討していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
大規模災害時に不足する消防力を補完する目的で、機能別消防団員を設立した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	130	130	130	130
実績	128	122	125	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
団員の構成は、市民がほとんどである。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
大規模災害時に不足する消防力を補完できるように、機能別消防団を設立し、9人が入団した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
女性消防団員の活動が停滞しているため、定員増も図ったことから、活性化していく。

7. 今後の方向性

拡充

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	消防団運営事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	③	自動車管理事業	予算区分	8-1-2 非常備消防費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和55年度	終了(予定)年度	-		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防団車両等10台を対象に、車検や定期点検を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 災害出動に即応するため、車両を維持管理する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算 決算	- -	1,445 991	1,807 990	1,862 1,492	1,974
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		修繕料				348	千円
(2)		燃料費				285	千円
(3)		自動車損害保険料				228	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事故・故障回数	回	見込	0	0	0	0	0
		実績	0	0	0	1	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
車検等の他、車両付属のポンプ等の点検を実施した。 上郷分団のポンプ車のポンプ廻りを修繕した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

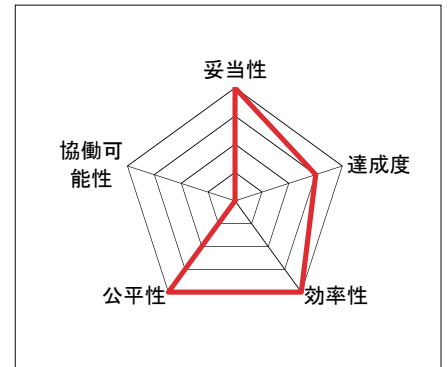
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
1,862 千円 1,974 千円 112 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 現状維持
・前年度【コメント】
消防団事務局の移管に伴い、管理体制が変わるので、年間予定表を作成し、漏れのないように管理していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
年間予定表を作成し、課内共有し適切に管理執行した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	4
協働可能性	-



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
車両等の維持管理は、協働で取り組める余地がない。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
災害対応時に、吸水が適切に行えない事象が発生した。定期点検の前に起こった事案であった。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
業者委託する点検だけに頼ることなく、日頃からの日常点検の徹底が必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

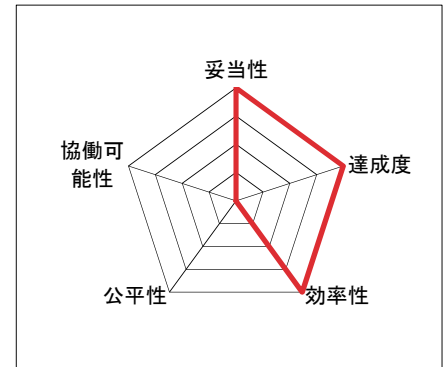
事業(A票)名	消防団運営事業	担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—	
事務事業名	④ 消防団手当	予算区分	8-1-2 非常備消防費			
事務事業の期間	事務事業開始年度	昭和55年度		終了(予定)年度	—	

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 消防団員に対し長久手市消防団条例に基づき報酬及び費用弁償を支給する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 条例に基づいた適正な支払いを行う。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	4
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	—	23,011	23,259	23,441	22,569
		決算	—	19,202	18,162	15,556	
＜備考：事業費の主な内訳（30年度(2018)）＞							
(1)		費用弁償				8,368	千円
(2)		消防団員報酬				5,574	千円
(3)		消防操法訓練報償費				600	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
支給ミス	人	見込	0	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	0
		見込					
		実績					
＜備考：活動の概要（30年度(2018)）＞							
消防団員の活動に対し、手当を支給する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 他市町においても同様な取組を行っている。
--

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
23,441 千円	22,569 千円	△ 872 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	現状維持	
・前年度【コメント】	報酬及び費用弁償の増額を検討し、条例改正を検討する。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
条例改正を行い、報酬及び費用弁償の支給額を増額した。団員定数を削減した。		

【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数 (人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況 (30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
消防団活動に対する手当等の支給事務のため、協働の余地なし。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
台風の上陸などで、風水害被害による災害対応が増えた。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
団員への支給事務において、該当団員が毎月違うため、債権者選定に時間を要する。

7. 今後の方向性

拡充